

2026/05/27 分野抄読会

がん免疫療法における有害事象のパターン検出に関する研究

東北大学大学院 医学研究科 公衆衛生学専攻
医学統計学分野 修士2年 矢澤清麻

概要

免疫チェックポイント阻害薬 (Immune Checkpoint Inhibitor: ICI) は進行がんに対する標準治療として急速に普及している。その作用機序に起因する免疫関連有害事象 (Immune-related Adverse Events: irAE) は、従来の細胞障害性抗がん剤による有害事象とは病態・発現様式が大きく異なる。この irAE の管理においては早期発見・早期対応が予後改善に直結するとされており、適切なモニタリング体制の構築が臨床上の重要課題となっている。

これらの有害事象の評価には CTCAE (Common Terminology Criteria for Adverse Events) が広く用いられているが、医療者評価のみでは患者の自覚症状を十分に反映できないことが指摘されている。そこで CTCAE の患者報告アウトカム (Patient Reported Outcome: PRO) 版として PRO-CTCAE が開発され、電子的に収集する ePRO を通じたより包括的な有害事象モニタリングが期待されている。

一方、ICI と細胞障害性抗がん剤を併用するレジメンでは、抗がん剤由来の有害事象と irAE の鑑別が臨床的に困難であり、PRO-CTCAE を活用した irAE 評価の実態はまだまだ十分に明らかにされていない。そこで本研究では、PRO-CTCAE を用いて irAE に関する症状関連有害事象の実態を記述的に把握することを目的とした。

本抄読会では、irAE の臨床的課題を踏まえ今後の展望についても考察した。ePRO で蓄積される時系列症状データに対し、生成 AI の基盤技術である Transformer の適用可能性について検討した。